

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	滋賀大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シガダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	就業体験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
	学部・研究科等名	経済学部
	担当教職員名・役職	彦根地区就職支援委員会(H28はインターンシップ委員会)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	54
	受入企業等数	30
	受入企業等名	住友電気工業株式会社大阪本社、株式会社日立建機ティエラ、プラザ一販売株式会社、トラスコ中山株式会社、株式会社黒壁、株式会社平和堂、株式会社京都銀行、株式会社名古屋銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫、岐阜信用金庫、豊田信用金庫、尼崎信用金庫、播州信用金庫、野村證券株式会社、滋賀県庁、彦根市、日本駐車開発、諾特克欺会社、佳凌科技有限公司、株式会社ニトリ、明治安田生命保険相互会社、SHホールディングス株式会社、NECソリューションイノベーター株式会社、兵神装備株式会社、seeknet USA、iLEAP、Whndham Cruises、高橋金属株式会社、コミュニティーインターンプログラム
	インターンシップの分類	3.海外インターンシップ、4.他県をまたぐ広域インターンシップ、6.大企業・グローバル企業でのインターンシップ、7.中小企業でのインターンシップ、8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事、2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
要素②	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	業務の従事型のもは、製造業や金融機関等での営業への動向や小売業での店頭販売の体験等があり、課題解決型のもはシステム会社におけるグループでのアプリ作成等のグループワークがある。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している、6.当該インターンシップは、選択科目として実施している、8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～3年次
要素③	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1単位～3単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	主に3年次を対象とした専門科目で実施しており、就業体験Ⅰ・Ⅱでは、2年生も可としている。単位数は、実習期間より、5日(又は30時間以上)で1単位、10日以上(又は60時間以上)で2単位、15日以上(又は90時間以上)で3単位を付与している。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている、2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている、3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている、4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている、2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている、3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している、3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	学生ごとに担当の教員を決め、インターンシップ中に相談が出来る体制を整えている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	目的、実習中に気を付けるべき点、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守については講義を行い、事業内容等に関する事前の調査・研究、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画については事前レポートにまとめさせ、提出後に指導を行っている。事前レポートは、事前に企業に送付している。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後レポート及び報告会にて、現場での体験の振り返りや成果目標等の達成の確認を行い、学生の報告書については冊子にまとめ受入先の企業に送付し、フィードバックを実施している。	
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生ごとに担当の教員を決め、事前事後のレポート時の助言やインターンシップ前やインターンシップ中の必要な時に随時相談が出来る体制を整えている。	
4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい	

要素④	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前レポートでまとめた、問題意識やインターンシップへの志望動機、目標について、事後レポート及び報告会で、実習を通じてどのような成果があり、今後どのように活かしていきたいかをまとめさせ、担当の教員が意識や行動の変容について確認を行っている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間から15日間程度
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	就業体験Ⅰでは、5日(または30時間)以上、就業体験Ⅱでは10日(または60時間)以上の実習期間を設けている。就業体験Ⅲでは、3週間程度(または90時間以上)の実習期間を設けている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業にも学生の評価をお願いし、成績に反映をさせている。また、受入先の企業には、事前に実施の目的、企業側のメリット、モデルプログラム、大学で行う事前事後教育の内容について明示している。実習後アンケートや、インターンシップ後の訪問によるヒアリングなどを行い、実習内容の改善を行っている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	別途提出済み
問い合わせ先	大学等名	滋賀大学
	担当部署名	学生支援課就職係
	担当者役職名	係長
	担当者氏名	中村 一史
	電話番号	0749-27-1021
	メールアドレス	job@biwako.shiga-u.ac.jp